

## 日臨技企画

### 日臨技会長講演

9月30日(土) 9:15~10:15 第1会場

医療法・臨検法の一部改正に伴う今後の方向性

－多様なニーズに対応できる臨床検査技師のあり方－

参議院議員

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会

代表理事会長 宮島 喜文

司会：平成29年度日臨技中部圏支部医学検査学会長 梶山 広美

2025年には団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となり、要介護、認知症高齢者が急速に増加すると推計されています。政府は2025年問題として、持続可能な社会保障制度とするため医療提供体制の見直しを開始した。「病院完結型医療」から患者を地域で連携して支える「地域完結型医療」へと大きな転換が進められて、急性期病床を縮小し、回復期・慢性期病床を増やし、更に在宅医療を充実する方向で国は医療・介護の改革を進めている。

平成29年6月7日、参議院本会議において「医療法等の一部を改正する法律案（内閣提出第57号）」が全会一致で可決、成立した。医療機関等の中で検体検査を行う場合の施設の構造設備等並びに精度の確保の方法等に関する基準の創設、衛生検査所等において行われる検体検査の精度の確保に関する基準の明確化の措置の他、検体検査を包括規定し、詳細な分類は厚生労働省令に委任することが規定された。医療機関における検体検査の品質・精度管理の詳細な基準については、今後、厚労省に設置される検討会で議論される予定である。

また、平成17年の臨床検査技師等に関する法律の改定時の付帯事項であった「高度な医学的知識及び技術を必要とする検査については、検査の精度保証を確保する上で、専門的知識や技能を有する臨床検査技師が行うことが望ましい。」との記述がされたが、その後、十分な展開ができなかった。今回の医療法、臨検法の一部改正に伴う付帯事項において、「検査精度の確保に関しては、遺伝子関連検査を含む検体検査のみならず、心電図、脳波、超音波検査等の生理学的な検査について、学術団体等の作成するガイドライン等に留意しつつ検討することなどが記載されている。

したがって、病院内で実施される臨床検査が「やっと市民権を得た」と喜ぶ声もあるが、昭和33年以來の悲願である医療法の中における「臨床検査」の法的地位が実現したと言える。しかし、臨床検査技師の業務独占までには「まだ遠い道程がある」と考えるべきである。そのように考えれば、「決してゴールに達したのではなく、今からがスタート」と言うべきであろう。

今後、日臨技としては「検体検査の特定分野における業務制限」に向けて、遺伝子関連検査、輸血を含む移植関連検査、がん治療（遠隔診断など）に関する病理検査、耐性菌に関する微生物検査など、高度な知識や技術を要する分野については検査の専門家として、検査の品質と精度保証を確保する上で法的な業務制限に向けた取組みを展開する。

「日臨技を新生させ、未来を拓く」・この旅はまだまだ続く。「真の医療人と言われる臨床検査技師像」を目指して、皆さんと一緒に頑張りたい。

(平成29年6月22日)

## 病棟業務検査技師企画

9月30日(土) 10:35~11:50 第1会場

チーム医療の中で臨床検査技師の専門性を生かす新基軸のひとつとして、医療現場や在宅においても臨床検査技師の活躍の場は多くなってきた。その中で、病棟業務への参画は重要な取り組みとして進められている。平成27年10月に発足した日臨技の病棟業務推進施設情報連絡会議には、全国で789施設が加入し、情報を共有している(平成29年4月4日現在)。現在中部圏支部では93施設が登録しており、病棟業務実施施設は20施設になる。本企画では、各施設で取り組まれている活動の報告をいただき情報交換の場としたい。

司会： 山田 哲司 (病棟業務推進施設連絡協議会)  
(社会福祉法人聖隷福祉事業団総合病院聖隷三方原病院)  
山田 幸司 (JA愛知厚生連足助病院)

1. 臨床検査室が行う検査室外検査機器の運用支援  
柴田 明音 (岡崎市民病院)
2. ポータブルエコー活用による臨床支援 当院の取り組み  
妹尾 有夏 (名古屋第二赤十字病院)
3. 脳卒中外科病棟を中心とした病棟業務への取り組みについて  
北村 祐子 (聖隷三方原病院)
4. 当院の呼吸ケアサポートチーム(RST)における臨床検査技師の役割について  
谷内 隆浩 (富山県済生会富山病院)
5. 血液浄化センターでの検査説明・相談の取り組み  
森 さゆり (岐阜中央病院)
6. CAG 施行患者への採血結果説明を行って  
笠井 久豊 (済生会松阪総合病院)

## 学生フォーラム

10月1日（日）13：00～14：30 第1会場

今年度より、学生主導のフォーラムを開催します。  
日臨技支部学会への学生参加を促進し、学生と会員との意見交換の場とします。

### ねらい

私たちがイメージしている「病院での働き方」あるいは「企業での働き方」について、養成校の在學生にアンケート調査を実施することにより明らかとすると同時に、その疑問点などについても浮き彫りにする。そして、実際に病院および企業で働く臨床検査技師を交え意見交換を行うことにより、病院や企業での働き方を明確にし、疑問点や不安などを解決に導きたい。

今回の企画を通して、将来の「働き方」を広い視野で多角的に捉え考えることにより、臨床検査技師の活躍の場について考える。

### 内 容

- ① 学生によるアンケート調査結果を基にした病院勤務と企業勤務についての発表
- ② 企業で働く臨床検査技師による仕事内容の紹介
- ③ 学生と臨床検査技師による意見交換

### 参加大学

- 藤田保健衛生大学：発表およびアンケート調査
- 名古屋大学：発表およびアンケート調査
- 岐阜医療科学大学：アンケート調査
- 鈴鹿医療科学大学：アンケート調査

\* 多くの臨床検査技師の皆様のご参加をお待ちしております。